刊行にあたって

認証評価が制度化されて7年目を迎え、今年で大学評価は一巡することになる。本学が財団法人大学基準協会による認証評価を2009年度に受けることを決定したのは、2006年のことであった。以来、自己点検・評価の推進体制を見直し、2007年には提出する報告書のたたき台となる自己点検・評価報告書を作成するなどの準備を進め、2009年3月末には予定通り大学評価関連資料一式を大学基準協会に提出することができた。2009年秋には実地調査も実施され、本年3月に「大学として基準に適合」との待望の大学評価（認証評価）結果を受け取ることができた。今年は行吉学園が創立70周年を迎える年であり、すばらしい節目となったと喜びもひとしおである。この間、多くの教職員がこの取り組みに関わってきたが、決して平坦な道のりでなかっただけに、改めてそれぞれの立場で精一杯の努力をしてくださった方々に、心からの感謝の意を表する次第である。

認証評価への取り組みを開始するに当たって、「何のための評価か？」という点に関して、第一に大学が自身の諸活動に対する改革・改善のビジョンを示し、認証評価機関からそれに対する助言・支援を受けるのが認証評価であること、第二に自己点検・評価報告書や大学基礎データを大学評価結果とともに社会に公表することで、神戸女子大学が自らの個性・特色を社会に示すことが可能となり、地域への貢献と共生を続けていくための絶好の機会となることを強調した。

本報告書の作成作業は2008年4月から始まった。まず点検・評価の基本的な姿勢を再確認した上で、自己点検･評価委員会やその中の学科担当者会議、編集者会議を繰り返し開催しながら、2007年度版報告書をたたき台にして提出する報告書素案を作成することから始めた。9月初旬には、完成した素案について大学基準協会の事前指導をお願いした。10月に入ると、執筆責任者、学長、自己点検・評価推進事務室が中心となり、部局長、学園企画室、法人本部も加わって、疑問点や表現の不備など細部にわたる点検を繰り返して、第一次、第二次、第三次の報告書を作成した。さらに編集作業と校正作業を徹底して、常任理事会へ最終的な報告書を提出したのは、2009年の3月初旬であった。

3年にわたる認証評価に向けた取り組みを振り返ると、各部署が原稿提出や修正の期限を守れないのはある程度仕方ないとしても、取り組みへの姿勢を徹底し、報告書の表現や書き方などについても研修を重ねてきたにも関わらず､記述の深さや表現には各部署で随分ばらつきがあった。何よりも、一連の作業に対する理解や協力の度合いには大きな隔たりがあったというのが実感である。そんな中、認証評価を無事に終えることができたのは、執筆者とのやりとり、スケジュール管理、編集作業、校正作業に精一杯取り組んだ自己点検・評価推進事務室の功績が大きい。

すでに、大学評価（認証評価）結果に付された助言を踏まえながら、大学・学部・学科それぞれが抱える課題を分析し、改善に向けた方策について議論する作業を開始している。今回の認証評価への取り組みが活かされ、本学の全構成員が目指す大学像の実現に向けて自己点検・評価を恒常的に実施し、大学基礎データを更新することによって、次回の認証評価はスムーズに進められることを切に願っている。

最後に、本学の大学評価（認証評価）にあたり、審査の労をとられた大学基準協会大学評価委員会の方々、ならびに大学基準協会関係者の方々に深甚なる謝意を表します。

2010年5月

神戸女子大学
学長　波田重熙